

**平成16年度総合型地域スポーツクラブ育成推進事業
先進総合型地域スポーツクラブ実態調査ヒアリングシート**

【基礎データ】	記入日 平成16年10月3日				
フリガナ					
クラブ名	NPO法人 ごうどスポーツクラブ				
活動地域	岐阜県		神戸町		全地区
市区町村の人口	20,930	名	クラブ設立年	2003	年
			クラブ会員数	2,665	名
当該地域の小学校の数と児童数	4		校		1,192
					名
当該地域の中学校の数と生徒数	1		校		595
					名
主な活動スポーツ種目	スポーツ少年団, 中学校部活動, 一般スポーツ教室, サークル活動, 他				
フリガナ	おぐら にろう		クラブでの役職名		会長(理事長)
クラブ代表者名	小 倉 武 郎				

【1. クラブの歴史】

(1) 創設年	2003年
(2) 創設期における当該地域のスポーツの一般的な状況	行政 - 補助金の塩漬け状態に陰りが見え始める。 体育協会(会員2000名) - 組織の硬直化・役員、指導者の高齢化は否めない。 会員も若い層につながらず、高齢化は顕著で閉鎖的な種目団体になっている。 スポーツ少年団(入団率62%) - 指導者の硬直化(指導方法のマンネリ化)・勉強不足・自身の経験の延長線。 大人の価値観が優先し勝利至上主義から脱却できない。 複数種目へのトライが見えず、団員からは種目の選択性、指導者の選択性にかける。 中学校部活動 - 教員の高齢化、専門(経験)不足 生徒減少にともなう廃部。 企業スポーツ(メセナ活動) - 予算削減、部から同好会へシフト。

【2. クラブの一般的特徴】

(3) 過去3～5年ぐらいの会員数の推移(学校区別)	
・2000年	区・ 名/ 区・ 名/ 区・ 名/合計 区・ 名
・2001年	区・ 名/ 区・ 名/ 区・ 名/合計 区・ 名
・2002年	区・ 名/ 区・ 名/ 区・ 名/合計 区・ 名
・2003年	区・ 名/ 区・ 名/ 区・ 名/合計 区・ 2923名
・2004年	区・ 名/ 区・ 名/ 区・ 名/合計 区・ 2665名
(4) 活動種目の内容と数	野球・サッカー・バレーボール・剣道・卓球・空手・バスケットボール・ソフトテニス・硬式テニス・ソフトボール・陸上競技・その他の 一般スポーツ教室(22種目38教室) サークル活動(12種目31団体) 小中一貫指導(6種目) 中学部活動(10種目14団体) スポーツ少年団(10種目)
(5) 活動圏域(校区等の特徴)	町人口: 20,930人(H15年1月1日現在) 世帯数: 6,184世帯 面積: 18.77平方キロメートル(平地) 学校区: 4小学校(児童数1,192名) 1中学校(生徒数595名)
(6) 定期的な活動内容	スポーツ少年団活動、中学校運動系部活動、小中一貫指導、一般スポーツ教室、スポ少開放(オープンデイ)、コミュニティなど
(7) イベント等の不定期的な活動の特徴	初心者向け登山(体協加盟団体と連携しコース設定、当日のサポート依頼) ボウリング(ボウリング場貸切でCD交渉) スキー(スキー協会、スキー場と連携し当日の教室開催、リフト券の優待など) スポーツレクリエーション祭(共催を体協・スポ少とし、参画・参加を促し協力体制をとる) 町主催イベントどんとこい祭り(クラブブース出店し物販の営利活動) 業者共催イベント(共催としてクラブにて申し込み受付等を行いマージンを期待する、人的派遣は基本的にクラブ側は行わない) 障害者スポーツ・高齢者スポーツ愛好者には、教室名を工夫して実施している。 広報活動として、年2回の広報誌発行とHP及び町発刊の「広報ごうど」を利用して町内会に配布している。

【3. キーパーソンの属性】

(8) キーパーソン(指導者)の人柄(さらりと特徴的なこと)
猪年、A B型
(9) なぜ故に総合クラブをつくろうとしたのか
国のスポーツ振興計画で、具体的な数値目標が示され、成人の週1回以上のスポーツ実施率が50%になることを目指し、そのための方策として2010年までに少なくとも一つは、市町村に総合型地域スポーツクラブを育成するとある。国の施策である以上嫌がおうにも日本のスポーツ環境は変わると判断、であるならば早い機会に、自らの地域のスポーツ環境を整備することが地域のためであり、スポーツ愛好者のためになり、そのことを通じて新しい地域づくり、人づくりになると感じた。 クラブ設立のメリットとして、以下が挙げられる。他のスポーツをやりたいニーズに応える。バランスのとれた身体づくりができる。行政からの補助金の減額に、受益者負担で対応する。
(10) そこには自分自身のスポーツ経験とどのような関連があるのか
体育指導委員としての使命感。

【4. クラブの意思決定機関】

(11) 創設メンバーの肩書き
町長、教育委員長、体育協会会長、スポーツ少年団本部長、学連校長会長、体育指導委員長、区長会長、学連PTA会長、教育長、公民館長、老連会長、社会福祉協議会会長、学識経験者、スポーツドクター、体協副会長、体協種目別会長、スポ少副本部長、スポ少種目別団長、神戸小学校長、南平野小学校長、北小学校長、神戸中学校長、各小学校PTA会長、体育推進員連絡協議会会長、青年のつどい協議会会長、子ども会育成協議会会長、社会教育委員代表、保健センター代表、体育指導委員、その他
(12) いつ、どこで
毎月1回、運営委員会をクラブハウスにて開催。
(13) どんな人たちによって
体協・スポ少・体指・学校の代表、クラブマネジャー、教委など
(14) どんな内容を決定しているのか
各専門委員会、団体、事務局からの報告及び検討を要する協議事項、運営に関わる諸事項(プログラム、謝金、備品消耗品、活動の連携団体、対外的懸案事項、視察受け入れに関する事など) NPOとしての協議事項
(15) 意志決定をスムーズにするための工夫
運営委員会開催前(原則として1週間前)に専門委員会委員長が集合して事前会議実施。

【5. クラブの組織体制と財政規模】

<p>(16) 組織体制の特徴と配置スタッフ数</p> <p>運営委員会（執行部12名+各専門委員会委員長及び副委員長12名） 常任理事会（運営委員会+会員代表+体協代表{役員+各種目協会代表}+スポーツ少年団代表{役員+各団代表}+サークル代表+小中学校代表+部活動主任+小中学校PTA代表+体育指導委員 理事総会</p>
<p>(17) 組織体制づくりにあたって当該地域において配慮したこと</p> <p>幅広い層からの参画を考慮し流れを変えた。（従来の流れにある暗黙の人選を断ち切った。） 地域住民の有能な人材発掘とボランティアシップ喚起を促した。</p>
<p>(18) 組織体制づくりにあたって工夫したこと（特徴点）</p> <p>各界からの参画を得た。（体指、体協、スポ少、役場職員、教員、地元商工会若手経営者） 地元商工会には親の七光りを超えようという若手2世の八光会があり、地元を愛しあらゆる活動を積極的にしている。役員の中にそんな団体と人脈を持っている方がおり、呼掛けをして参画協力を得た。 フィットネスルーム常駐スタッフは地域住民の隠れた人材発掘を行い、有資格者や教員免許所持者などの人材を有償ボランティアとして採用している。 設立に至るまで、関係者間の共通認識を徹底して討議し、理念を同じにした。</p>
<p>(19) 会費及び財政規模とその支出内容（16年度予算）</p> <p>ア) 自主財源の獲得状況（会費や寄付金を含む） 入会金：一律1,000円 会費：3,000円/年（身障者：1,500円） 保険料500円～1,500円 一般スポーツ教室：事業単位に半期ごと徴収（平均3,000円/半期） 賛助団体：10,000円/年（プログラム掲載年2回/全戸配布） 広告店：10,000円/年（プログラム掲載年2回/全戸配布） toto：4,000千円 受託費：2,000千円</p> <p>イ) 財政規模とその主な支出内容 15年度（文科省の最終補助年度） 収入：13,500千円 主な支出：人件費9,080千円 16年度（自主財源初年度） 収入見込：21,470千円 主な支出：人件費13,610千円</p> <p>ウ) 委託事業(行政等)の有無と今後の期待（指定管理者制度導入を見据えて） 委託事業：フィットネスルーム（トレーニングルーム）の運営管理を受託している。 今後については行政に色々と提案はしているものの、合併問題が難航していることもあり反応が今ひとつであり、早急に行政改革、スリム化につながることを認識してほしい。 NPOについても、指定管理者制度についても町村レベルの行政は認識が乏しい、民間にできることは民間への感覚を持ってほしい。</p>

【6. クラブ理念の確立に向けて】

(20) クラブの目的と理念についての考え方
目的：スポーツを通して人づくり、地域づくりに貢献する。 理念：各種団体（体協・スポ少・学校等）との密接な連携、参加者による主体的な自主運営のもと、スポーツをしている人へは一貫指導とジュニア育成を、スポーツをしていない人へは多世代のオープン教室を提供する。
(21) 当該地域における当該クラブの位置づけ
町トップをはじめとして官民一体となって設立に取り組んだこともあり、行政にも認知されたクラブではあるが、創設当初のムードは沈滞気味であると感じると同時に、悲観的憶測をする行政管理職がいることも事実である。 実績の蓄積データを提示し根気に交渉することが欠かせない。
(22) 当該クラブの将来展望（夢のようなもの）
広域合併問題で行政が停滞する中、ごうどスポーツクラブは平成16年4月1日より、NPO法人の登記がなされ名実ともに広く認知される団体となり、同時に責任も大きく問われることとなる。行政、企業等からの事業運営、施設運営管理が受託しやすい環境整備も図られ、会員への利益還元、プログラムサービスができる基盤づくりがスタートし、いよいよ会員自らの主体性ある運営に望みを託せる。

【7. 活動拠点の運営とその利用状況】

(23) クラブハウス・事務所の有無 有る場合はその概要（住所や所有権など）
クラブハウス：toto助成のクラブハウス改修助成金を受け、20人程度の会議場も併設した明るい事務所と、その前に会員のくつろぐサロンも設置され、憩いの場として重用されている。 神戸町民体育館の事務所（それまでは無人の空家）を改装したものであり、公営施設である。
(24) 練習・活動拠点 当該地域における拠点施設の特徴（立地条件、所有権、運営主体など）
主な活動拠点は町民体育館及び総合体育館、学校グラウンド等である。 学校開放も問題なく、小中学校の施設の有効利用がなされている。 4小学校が立地的にうまく配置されており、利便性にさほど問題は感じられない。
(25) 拠点施設の利便性とその矛盾（困っていること等）
施設面では非常に恵まれているし利便性でも許容範囲である。 種目人数に偏りがあるため一部施設では飽和状態の傾向にある。
(26) 当該地域における公的スポーツ施設（学校を含む）数
【屋内施設：7】町民体育館、総合体育館、学校体育館（5） 【屋外施設：15】町民グラウンド、西座倉グラウンド、学校グラウンド（5）、テニスコート（3） 常設パターゴルフ場、グラウンドゴルフ場、ゲートボール場（全天候型含む）、町民プール（1） 【高校施設：3】野球場（1）、サッカー場（1）、テニスコート（1）

【8. 関係団体との連携と協力体制】

(27) 小学校・中学校との連携（具体的に）
<p>小学校との連携：コミュニティスポーツタイム - 月1回軽スポーツ、ニュースポーツを4小学校で種目をリンクし開催、各小学校とも教員の当番性をシフトして協力してくれている。学校の運動会や授業など他の事業への連携にも発展している。</p> <p>中学校との連携：小中一貫指導、中学生スクールなど徐々に理解を深め、今年度は土曜日・日曜日の部活をクラブの活動として協力、また教員の指導者登録も積極的。</p>
(28) 具体的な連携対象団体とその内容（人、金、事業等）
<p>体育協会：中学校運動系部活支援、事業支援（コムスポ・イベント）etc スポーツ少年団：小学生対象スポーツスクール（オープンデイ）etc 柔道整復師会：傷害予防処置、応急処置等のサポート スポーツドクター：2医師による無料相談（事前予約） 近隣4ボーリング場のゲーム料金割引（会員証提示） スーパー銭湯の回数割引券販売。 賛同店による割引（会員証提示） 施設利用料の割引</p>
(29) 協力体制確立のための工夫と成功要因
<p>団体に向けてはひたすら説明会。その他は役員の人脈からお願い。 全てにおいて事前事後のアフターケア（気配り、心配り）</p>
(30) 協力体制確立のためにやってはいけないこと（想定される失敗するケース）
<p>独断に走らないこと。（相手には相手の領域があり立場がある。）（学校には学校の指導方針がある。） 組織系統を無視した動きをしないこと。</p>
(31) 関係団体がクラブに協力・協働する際の具体的メリット
<p>指導謝金制度 施設利用のパスポート 傷害保険制度 相互利益のメリット</p>

【9. 会員・指導者獲得のための事業の工夫】

(32) 会員獲得&指導者獲得のための工夫と成功例
<p>会員：魅力あるプログラムの提供と活動の場の保障。会員証のステータス性アップ（スポーツドクターによる無料相談等の会員特典の多彩性）。広報活動。会員獲得には、教室の充実、指導者の資質向上等努めてきたが、口コミの影響が大きい。会員の年会費納入も振込みにせず、窓口での現金納入とし、受付でのフェイス-toフェイスを心掛けている。</p> <p>指導者：謝金制度の確立。指導者研修会を開催しスキルアップ。</p>
(33) 会員獲得&指導者獲得のためにやってはいけないこと（失敗例）
<p>理解不足のまま登録させないこと。 過大な期待感を持たせないこと。</p>
(34) くじ助成等助成金・補助金によって行った事業・行おうとしている事業の内容
<p>15年度：クラブハウス改修（toto助成 11,000千円）+（町助成 9,000千円） 16年度：クラブ活動支援（toto助成 4,000千円）+（町助成 800千円）</p>
(35) 助成金・補助金による事業の成果（予想される成果も含めて）
<p>会員への魅力あるプログラム提供が図られ会員増の成果。 専従職員の配置ができた。（1.5人）</p>

【10. クラブ創設期・成長期の特徴】

<p>(36) 創設期の組織体制と成長期の組織体制の違い</p>
<p>まだ草創期であり、成長期に移行したとは考えていない。</p>
<p>(37) クラブの運営状況が発展してきたその理由</p>
<p>参画している役員、スタッフ、会員の献身的な努力の賜物。</p>
<p>(38) 成功したと思われる決定的な要因</p>
<p>既存の団体を避けず、苦勞をしながらも当初から巻き込んだことと思うが、決定的に成功しているとは考えていない。</p>
<p>(39) 今後、日本体育協会に対してどのような支援を望むか</p>
<p>クラブ運営に必要な新鮮なノウハウのよどみない提供（新鮮な新しい風） スポーツ環境（事業経営・新指導方法etc）の変化、方向性を適宜わかりやすく提供 スポーツクラブ派遣担当者もしくは人材育成の場の提供 資金援助</p>
<p>(40) 現在、悩んでいること、困っていること</p>
<p>単年度事業であり、毎年まな板の上に乗って評価を受ける辛さ。 運営委員といえども、実質的には本職を持ちながらの参画であり、今一步を踏み込むのに躊躇している感があるし、それ以上は本人の自覚を期待することになってしまう。 指導者の意識改革が急務であり、変革を追及しつづける必要がある。 受益者負担による自主運営といっても会員はその意識に乏しく、スポーツを扱う窓口が教育委員会からスポーツクラブに変わったくらいの認識である。 安定した財源（資源）確立。 その他悩みは尽きず。 会員数は少子化による生徒数減少の影響を受けている。会員数確保は緊急課題である。</p>